

熱性けいれん



- ① 6ヶ月から5才頃までにみられる高熱に伴うけいれんです。髄膜炎や脳炎によるものは除きます。
- ② 脳の未熟性に発熱が誘因となって起こすと考えられています。子供100人に4人が経験します。神経の異常や、後遺症の心配はありません。
- ③ 呼びかけに反応がなくなり、眼球が固定し、顔色が悪くなり、手足が緊張して、ぴくぴくけいれんします。ほとんどは2～3分で治まります。
- ④ 30%の子が2回以上経験しますが、再発は1～2年以内がほとんどです。
- ⑤ けいれんしたら、あわてずに寝かせて衣類をゆるめて楽にしてあげます。時計でけいれんの持続時間を見ておきます。嘔吐したら顔を横に向け、吐物を除きます。口内に物をいれると呼吸がしにくくなります。舌を噛むことはないので、ハシなどを入れないようにしましょう。
- ⑥ けいれんが止まる心配がないようなら救急車を呼びましょう。初めてけいれんしたときはすぐ救急車を呼んでもいいでしょう。
- ⑦ 予防接種は主治医と相談の上、接種できます。
- ⑧ 再発するようなら抗けいれん剤の座薬で予防できます。



ハピネス こども クリニック

お問い合わせは…

087-848-9178

